

9— 作者不詳《御馬「友鶴」置物》
明治27年(1894) 鑄造



石川光明は、江戸期には、象牙材で煙草筒などを製造する職人であった。それが、明治期以降、人物や動物をモチーフとした置物を手がけて成功し、牙彫の第一人者と目されるようになる。そして、明治24年からは、東京美術学校(現・東京芸術大学美術学部)教授として、木彫を中心とした伝統的彫刻技法の指導にあたった。その生涯はまさに、「工芸」と「彫刻」がまだ渾然一体としており、しかも「置物」と「彫刻」が同一視されていた時代状況を一身に体現したものであったといえよう。

10— 石川光明《牙彫鷹匠置物》
明治33年(1900) 牙彫

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代日本の置物と彫刻と人形と
— 豊饒なる立体像の世界
三の丸尚蔵館展覧会図録No.34

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 横溝廣子
発行 宮内庁
平成16年3月27日

Modern Japanese Ornamental Artifacts, Sculpture, and Dolls
— the fruitful world of three dimensional figures
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.34

Edited by the Museum of the Imperial Collections, Tokyo
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by Tokyo Bijutsu Co., Ltd.
Translated by Hiroko Yokomizo
Published by Imperial Household Agency, Japan
Issued on March 27, 2004

Copyright ©2004, The Museum of the Imperial Collections, Tokyo